

## 令和2年度 第1回徳島県文化創造審議会 議事録

### I 日 時

令和2年8月28日（金）午後1時30分から午後3時00分まで

### II 場 所

徳島グランヴィリオホテル1階 ヴィリオホール

### III 出席者

【委 員】20名中19名出席

桐野豊会長、吉田和文副会長、青山佳裕委員、阿部曜子委員、有内則子委員、大井美弥子委員、大石雅章委員、加藤篤委員、佐藤勉委員、鈴木アヤ子委員、鶴瀬千恵美委員、中元祥夫委員、花柳淳吾委員、板東久美委員、藤原奈穂委員、前田隼輝委員、森恵子委員、大和あゆみ委員、四十宮隆志委員

【徳島県】

上田輝明未来創生文化部長、加藤幸一県民文化課長ほか

### IV 次 第

#### 1 開会

#### 2 議事

(1) 会長・副会長の選任について

(2) 「徳島県文化芸術推進基本計画」の令和元年度の進捗状況について

(3) 令和2年度の文化芸術関連事業の状況について

(4) その他

#### 3 閉会

### V 議事の概要

議事1について委員の互選により、桐野委員が会長、吉田委員が副会長に決定

#### 事務局

議事2、3について資料説明及び資料映像上映

#### 会長

はい。どうもありがとうございました。

事務局から計画の進捗状況と、今年度の事業の状況についてご報告いただきましたけれども、これにつきまして委員の皆様方からご発言やご意見を頂ければと思います。

本日のメインの事柄は、この皆様方からご意見を頂かっていうことですので、どうぞ、どなたでも結構ですのでご発言をお願いいたします。

皆様方、お申し出がないようですと、前回と同じように全ての委員の方に、順番に

ご発言をお願いしたいと思いますがよろしいでしょうか。

では、どうぞお願いします。

#### 委員

よろしくお願いいたします。

今見せていただきました映像なんですけれども、藍色展、昨年たくさんの方にご来場いただきまして、すごく盛況だったかなと思います。あの資料とか映像とかは今、どこかで公開されておられますか。

#### 事務局

委員の方から頂きました、現状、映像はどこかで見えますか、というお尋ねに關しまして、実は、徳島県は7月を藍の推進月間というような形にしておりまして、その月間中、県庁内の4Kディスプレイでの放映等を行ったところであります。

今現在、どこかでフリーに見えるかという、そういう状態ではないのですが、徳島県の動画チャンネル等に登録しまして、関連動画にいつでもアクセスしていただいたら見える状態にする予定であります。それまで少しお待ちいただけたらと思います。

#### 委員

よろしくお願いします。

基本計画の進捗状況の、先ほど頂いた資料の5ページで、「発信！あわ文化ブランドの創出」とありますが、発信というところで観光情報の最高アクセス数が令和1年度から令和5年度までの基本計画で、毎年20万ずつ伸びるという計画でしていたようですが、それはたぶんコロナという状況が起こる以前に計画されたものではないかなと思われます。

ちょっと分からないんですけど、このような今までなかった前代未聞の状況に世界が陥ってて、コロナの状況になってもしかしたらアクセス状況が増えているのではないかなと。最近の新聞で、世界のどこの国でしたかはちょっと忘れてしまったんですけども、「今一番コロナが収束したら、一番行きたい国はどこですか？」と言ったときに日本が一番だったというのを見ました。

で、同じように徳島もインバウンドがかなり良い線を行ってる、特に西部地方の方なんかで良い線を行っている時にこのような状況になってしまって、外国からのSNSを通じた発信、それを受け止めたい、情報が欲しいところが増加しつつあったところで、外国から入ってこれないという状況になってしまいました。

でも、もしかしたらアクセスは増えているのではないかな。もし増えているのであれば、この毎年20万という基本計画の数字は、ちょっと修正の必要があるのではないかな、というふうに思われます。もし今増えているのであったら、この増えている状況を見て次を修正しないといけないうし、ピンチをチャンスに変えて、行きたいという気持ちを醸成させてもらおうというか。

国内外両方において、阿波踊りなかったけれども行きたいという国内の人たちの気持ちとか、あるいは外国でも日本に行ってみたい、で、祖谷温泉に入ってみたいとい

うアクセスが増えているのであれば、それを上手に収束後の展望に変えていくというような考え方も必要ではないかな、というふうに思われます。

## 事務局

ただいまのご意見につきまして、少し補足の説明をさせていただきます。

このアクセス数、非常に少なくなってしまったんですが、先程事務局からご説明しましたように、ちょっと技術的なところで、どうしても再検索するには、Googleとか検索サイトから入って行くことが多いと。検索サイトにうまくヒットしていかないと、個別に、例えば「阿波ナビ」に直接来ることは考えられないので、そこは連携がうまくいってなかったところは技術的に既にクリアされておりますので、一つその点は今年度以降直ってくるという予測をしております。

今後、アフターコロナと言いますか、いわゆる世界的な動きがまた活発になってきた時には、ぜひ日本、そして徳島というところで発信力というのが非常に重要になってまいります。その時に、観光面と言いつつも、本県の魅力の部分は、こういった「文化」というところがあるということで、今も常に観光部局と文化部局との連携を取っております。こういった目標値のところも、常に観光部局と意見交換しながら、必要に応じた見直しということも考えております。

この数字は実際には、観光の基本計画の中にも入っておりますので、今頂いたような意見をもとにしまして、今後も更に積極的に進めていけるような、そういった目標設定を考えていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

## 委員

よろしくお願いいたします。

いろいろ計画されていたことがコロナで吹っ飛んでしまって、これに当てはまらない状況だと思うんですけど、今できる施策を、という映像とか見せていただきまして、そうだなと思っているところです。

音楽協会に属してるオーケストラ、合唱、ギターその他のものも、春以降全て活動停止しております。6月7月ぐらいから各種ガイドラインに沿って練習を開始したところですけども、この7月8月の状況で、またそれを停止しなければいけないのかなっていうことになってきています。

懸念されているのが、やはり技術レベルの低下、それよりも目標が立てられない、計画が立てられないという意欲の低下、それによる合唱とかオーケストラとかそういう人口の減少。そういったことを非常に今懸念しています。

合唱の方では、集まって会議をすとかいうこともできない状況なので、まず今県内どういう状況なのか、各団体とか組織がどういう状況にあるのかというアンケート、実態調査をこれから行って、「こういった感染防止の取り組みをしているのか」というふうな調査をまず行って、情報を業界で共有することで、一緒にこの状況を乗り切っていきましょう、一緒にやってみましょうという空気を作り出していけないかな、というようなことを考えているところです。

本当に今できることをするしかないなというふうに、なかなかピンチをチャンスに、

というところに今行けないんですけれども、前を向いて出来ることをやっていくしかないな、っていうことを思っている状況です。

#### 委員

あの、今日報告読ませていただいて、どうもありがとうございます。

やはり今思うことは、いろいろ令和1年から令和5年までの計画、その事業の数とか数値とか、おそらくコロナで大きく変わってきて、今その中で、どのようにこの文化を展開していくのかというところですね。その中で、映像で見せていただいて、一部そういう活動が入ってるんですけれども、それぞれのところでおそらく今回の様々な計画もされて実践されているものの中で、非常にそれぞれの立場でご苦労されていると思うんです。

それでその中でどのように超えていこうとするのか、それとまた現在の課題は何なのか、ですね。このコロナの中で、それを克服してこの事業をさらに展開していくためにはどういう課題があるのか、ということだと。やはりその課題を抽出して、みんなでその部分をどう克服していくか考えていく必要があるのかなと考えています。

やはり、今までの実践のままではコロナ以降なかなか難しいだろうと思いますので、その辺、またそれぞれどういう課題があるのかと教えていただければありがたいなと思っております。

#### 委員

あの、見させていただいて、徳島って本当に魅力に溢れている場所だなというのが正直なところですね。ただですね、こんなに魅力あるものを、私も松山とか大阪、東京などで仕事してたんですけれども、あまり知らなかったですね、恥ずかしながら。もちろん、藍、阿波踊りあたりは知ってたんですけれども。

これは自分で自分の首を絞めるようなところにもなるんですけれども、情報発信っていうのは非常に大事だなというふうに今思っています。今、この5番目の情報発信のところでは観光情報サイトの数字出てますけれども、じゃあこの数字というものを具体的に例えばどのように、どんな人に届けたいのだとか、そういうセグメントをもっと細かく絞った情報発信みたいなことやってみるとかですね。

具体的に言うと、例えば藍だったら、中国に届けようと思ったら、中国の方ってやっぱり金色が好きなんですよね。そうすると、藍色と金色を混ぜてみたり、なんかいろいろとこうセグメントを分けることで、情報発信の戦略的なものがいろいろ出来てくるのではないかなというふうに思いました。もちろん、私も自分の仕事を通して徳島県のお役に立たせていただきたいと思います。以上です。

#### 委員

先ほど来、皆さん方のご挨拶の中にもありましたけれども、本当にこのコロナによってですね、芸術文化等が本当に大きな影響を受けておまして、今後どういう方向に進んでいいのか非常に危惧しておるわけでございます。

財団の大きなホールでございます郷土文化会館にもですね、徳島市の文化センター

がない中で本当に活況で、本当にほぼ100%ホールなんかは使われていたんですけども、それがもう今は全く閑古鳥が鳴いているというような状況になっているわけでございます。

先ほど、県の今後の方向性にも書いていただいておりますように、これからですね、withコロナのなかでどういうふうに本県の文化活動を振興発展して発信していくのか、そういうことを財団の職員も含めてですね、真剣に今考えておるところでございます。

特に芸術家派遣事業というのがあるわけでございますけれども、なかなか学校現場にそういうふうなことができにくい、というような状況でございます。先ほどもオンラインでいろいろご指導を頂くという話もあったわけですが、やはり生の芸術、生のそういう文化に触れるということがいかに重要であるかを再認識しておるわけでございますので、今後そういう課題をどうクリアしていくかということ、県のご指導を受けながら考えていけたらと思っております。以上でございます。

## 委員

よろしくお願いいたします。

高校の方も本当にコロナの影響を受けまして、文化活動をしている生徒が本当に楽しみにしていた、学校独自の定期演奏会っていうのがあるんですけども、それも中止になってしまいました。本校の場合は中庭があるものですから、中庭のランチタイムコンサートで3年生に演奏させたりとかしているんですけども、本当に目当てとなる大会がなくなってしまうと、子供の文化活動を続ける意欲がなくなってしまうんですね。

高校の中にも阿波踊りだったりとか、それとか人形浄瑠璃だったりとか、地域の方の助けを借りまして、本当に、特に人形浄瑠璃なんかは、ほとんどが地域の、それも年配の方に教えていただきまして、やっているんですけども、それも難しいような状況になってきております。

できたら早く収束してくれたらと思うんですけども、特に高校生の場合は2年生が今本当に不安になっています。はたして自分たちは、何を目的にやったらいいのだろうか。その目的をどうやって与えていったらいいのかというのは、今の最大の悩みというか。

で、高校の方は、県の高等学校総合文化祭は、茶道部の部門は残念ながらちょっと中止になっているんですが、後はどうにか一生懸命したいと。近畿の高等学校文化祭の方はウェブの開催というふうに決まりました。あと、高知県であります全国の高等学校総合文化祭もウェブということで。

ただウェブになりますと、どなたかも仰ってましたけど生の作品を見たりとか、生の演技を見たりとかという経験がありません。やっぱり生のものを見るっていう感動は他のものに代え難いっていいですか、パソコンの画面で見るとは全然違った迫力といいですか、感動があります。またそういうものについてどうやっていったらいいのか、お知恵を借りながら高校生は高校生として頑張っ続けて続けさせたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

## 委員

よろしく申し上げます。

この資料の中の3ページの上から2番目、「地域文化を通じた郷土愛、地域愛の醸成」がございませう。このお盆に、文学書道館の吉野弘の詩の展覧会と、文書館の藍の展示を家族で見に行ったら、とても素晴らしい企画でした。惜しいと思ひましたのは、時間としてゆっくりと鑑賞しましたが、その間他の来館者が一人もいなかったということだす。

本当に、その時もそうでしたし、また、次のページにレキシルのことが載っておりますね、4ページに。文化資源の活用促進っていうので、レキシルとくしまのことが載っております。そこにも参りました。それも本当によく研究されているところが大きいにございませう。

でも本当に一生懸命企画をして、素晴らしい展示をされても、来館者が少ないっていうのは宣伝の効果の無さというのをとても痛切に感じました。それで私は、徳島新聞に投稿しました、素晴らしいっていうのを。そうしましたら、7～8人からメールが来まして、行ってみるって言って、そして行ってきて良かったというメールを何人かもらいました。でも、本当に素晴らしいこういう企画を、どうやって県民の皆さんに知らせていけるかっていうところが、今とっても気になっております。

話は変わりますが、厚生労働省がやっております、あのCOCOAっていうコロナの接触のありますよね。私あれすぐに登録したんです。で、いろいろな友達に「したで、したで」って言っても、みんなせんのですよ。だからあれだけこう、国として厚生労働省が訴えてもなかなか進まないほど、一つのことを徹底することは本当に難しいんだなと今思っております。徳島県の文化や企画は素晴らしい、それをどうやって宣伝するかっていうところを今考えております。よろしく申し上げます。

## 委員

よろしくお願ひいたします。

文化の方に着任して今年で3年目になりますが、このような徳島県全体の文化の方向性を決めていく会議があるということ自体、恥ずかしながら、存じ上げておりませんでした。この場でいろいろ県の文化について学ばせていただきたいと思ひまして、こんな大役ではございませうが、僭越ながら参加をさせていただくことに決めさせていただきました。どうぞ今後ともよろしくお願ひいたします。

この令和元年度の取組み、見させていただきまして、こんなにたくさんの取組みされているということを知りまして、すごいなあと、正直本当に単純に感心させていただきながらお話を伺っております。

今年、令和2年度、コロナの関係でなかなか難しい状況が続いていると拝察いたします。徳島市の事業におきまして、今年の3月から軒並み文化イベント全て思うように進まず、途中までは、どうにかさせていただきたいという思ひのもとに計画は進めているんですけども、やはりその都度状況が刻々と変わりがして、最終的にはできなかつたというのがほとんどでございませう。

ただ、少しずつではありますが、開催をさせていただきたいということで、この8月から感染予防のガイドライン、しっかり遵守した形で開催は開始させていただいております。その中で感じましたのは、本当に会場も今、50%ぐらいという基準があるんですけど、それよりも更に少ない3分の1ぐらいの基準でさせていただいてるんですが、でもすぐに募集の方をかけますと参加希望者のほうが埋まってしまうような状況で、やはり皆さん生の芸術、文化の方に触れたいという気持ちが、こんな世の中にあっても、本当にいらっしゃるんだなあというのもしみじみと感じております。また、出演されるアーティストの方も本当にこんな機会があってありがたいということで、すごく積極的に参加させていただいております。

10月には、オーケストラ合同演奏会といひまして、市内の小中高校生で合同でオーケストラの演奏会をさせていただいているんですけども、現在は開催の方向で練習を進めております。先ほどお話にありましたように、コンクールとかそういったものがみな、今年県大会、全国大会もなくなっておりますので、やはりその合同演奏会にかける意気込みが、皆さんものすごくひしひしと感じておりまして、これを目標として頑張っております、というような形で仰っていただいております。

本当に、こういったコロナの状況の下、なかなかこれからの計画も立てにくいところではありますけれども、少しでも文化芸術を続けていきたい、また自分の技術を高めていきたいといった、皆さんの、市民の方々、県民の方々の願いを少しでも実現できるようなサポートさせていただけるような道を探り、状況を見ながら、道を見つけて進んでいきたいと思っておりますので、皆様のお話とかお伺いしながらヒントにさせていただきたいと思っております。どうぞ、よろしく願いいたします。

## 委員

よろしく願いいたします。

那賀町では、多くの農村舞台が残っております。それで私、農村舞台の保存・継承を目的に人形浄瑠璃をはじめとする農村舞台公演を、那賀町農村舞台再生協議会という組織といたしまして今やっております。しかしながら財源不足になりますので、3ページの①の事業を活用させていただきまして、阿波文化担い手育成、阿波文化の継承発展事業を活用させていただきまして、年間6公演行っております。

今年はコロナがありましたので、1公演もできてないですけども、こういう事業がずっと、団体へ助成できるような施策が続いていければと思っております。補助していただきましてありがとうございましたと、感謝を申し上げます。以上です。

## 委員

どうぞよろしく願いいたします。

先ほど映像を見せていただきまして、こんな時代が来たんだなあと思っております。

先ほど来、各委員が仰ったように、私ぐらいの年齢になりますと、やはり生の舞台を見て感動し、生の師匠に教えていただいたということで、ちょっと映像は分からない部分がございます。学校も休み、企業も休み、そして私達の誇る阿波踊りも中止となり、私どもが秋に計画しております日本舞踊協会の会も中止となっております。

昔は生活環境が違うとはいえ、こういう疫病が流行ったりしますと、もちろん干ばつであったり水害であったりもしますが、祭礼、お祭りの祭礼で天の怒りとか神の怒りじゃと言って、それを静めるためにそのお祭りの催事を出したものでございますが、今このコロナウイルスによって本当に大変な思いをしております。

今後この感染第二波が、また第三波が来るという可能性があります。これからの時代を背負っていく若者が、もうこのコロナのせいで今やっていることをやめてしまうというようなことが無きように、やはり息の長い援助を検討していただきたいと思えます。豊かな心をとということで、活動に情熱を注いでおりますが、この流行っているコロナウイルスに負けないようにみんなで知恵を取り合って頑張っていきたいと思っております。どうかよろしくお願いいたします。

## 委員

いろいろお話伺ってますけれども、もろにそのコロナの影響を受けている授業内容等を今させていただいてるんですけれども、どういうふうにしようかといういろいろ考えまして、本当に音楽が好きかどうかであれば、コンクールとか無くなったからといって、その音楽をやるとか表現をやるってことをやめる程度の好きな人なんだなって思うようにしまして。

そのコンクール、日本で1番は世界のレベルって音楽の場合は言われているんですけど、それがメインになってしまっている教育とは別に、こういうコロナ禍の状況で自分たちが楽器を演奏する場所がなくなって、それはコロナのせいなんですけども、何か自分たちで出来ることはないのかっていうのを大学生には探してこいっていうのをちょっと夏休みの宿題にして。そのコロナの影響を受けないように、1人2人のお客さんでも必ずパフォーマンスをして、どんなリアクションがあったかっていうのをレポートに書いて出して欲しいっていうのを、私は今学生に宿題として出してます。

なので、本当に人形浄瑠璃とか藍染めが好きであれば、こういうものに負けないようなモチベーションを持ち続けるっていうようなことを、今の若い人に持ってほしいなっていうのが1番今痛感していることです。

藍染めの映像もすごく素晴らしく、きっとお金もたくさん掛かっているんだろうなと思って見せていただきました。たまたま私も今藍染め、出てきたやつを持っているんですけど、結局徳島に住んでいる私達は徳島のことは大好きなんですけど、何か身びいきじゃなくて身内のことを悪く言うみたいに「徳島何も無いよ」っていうように平気で言うんですけど、やっぱりそれはやめて、本当に恥ずかしながら「徳島は良いよ」って。だから今日わざと藍染めのマスクをしてきたんですけど、そういうことをやってもっとこう負けない自分というか、「周りのせいするな ばかものよ」みたいな、茨木のり子さんみたいですけど、そういう学生さんとか徳島県民になってほしいなっていうのが1つ。

ちょっと長くなりますけども、もう1つ、イベントを実施すると、例えば演奏とか練習とかが済んだら、そこでいっぱいいっぱいなんです。それ以上のお客さんに入っていただくPRのこととか、ある程度目鼻がついたっていうところで、「ああ、お客さんどうしよう、入らない」っていうことがよくあって。演奏会の前に言うとみんな用

事があって、っていうので、やっぱりそのPRする力は非常に弱いんですね、演奏したり、やってる人間は。

それをいろんなイベント、特にリモートの音楽もそうですけど、やっぱりいかにその人達に振り向いてもらって参加してもらおうかっていうのは、やっぱりマスコミ様のお力添えとかを非常に痛感してますので、県の皆さんのサポートとか、そういうこと全部巻き込んで、やっぱり文化と言われているものに携わっている人間の強さをここで見せるべきかなっていうことを最近思っております。以上です。

#### 委員

失礼いたします。よろしく申し上げます。

先ほどの動画の2つ目にあったオンラインレッスンっていうのを私は今受けているんですけども、やはり直接先生を通して、先生の音を実際に聴きながらレッスンを受けていることのありがたさをすごく感じている状況です。このような中でオンラインレッスンの指導という取組みをしていただけてすごくありがたく、先ほどの他の委員の方からのお話にあったんですけど、これがひとつの目標になって今頑張れることが出来ています。

やっぱりこのコロナウイルスの影響で、今音楽を通して自分が出来る事は何かって考えた時に、やはり人の心を癒やしたりとか、元気づけられるという取組みだと考えています。具体的にこれをするっていうのは今考え中なんですけれども、このコロナウイルスをみんなで乗り越えていけるような、そんな取組みができればと思っています。以上です。

#### 委員

私の方から、5ページ目の②の映像の効果的活用について、私達大学生の世代はですね、今は何もかもがYouTubeなどから入って、そこで興味を持った結果、実際いろんな県を訪れてみたり生の体験を求めていくっていうのが今の若者の主流なのかなというふうに考えています。

現状、昨年の実績で言うと動画4件、これは私の感覚からしたら非常に少ないかなというふうに思います。これは予算の影響があるのかもしれないですけど、四国大学の中には映像系の制作をする学部があったりしますので、積極的に大学生、県内の大学生を活用したりして動画件数を増やしたりすることで、実際に県外の人に見てもらったりする回数を増やしていくというのも大事だと思います。

あと、現状、コロナウイルスで生の体験っていうのがなかなか難しい状況ではあるんですけども、今の大学で開発している技術とかを使えば、実際に生ではないんですけども、VRだったり、手に着ける機械などを使って実際に触ったような感覚だったり、空気感とかを味わえるってことがより現実にリアリティの高いレベルでできるようになってきてますので、積極的にそういうことなどを活用していった方がより良いwithコロナの時代にあった政策になっていくと思います。

#### 委員

よろしくお願いいたします。

人形浄瑠璃振興会、いろんなイベントが中止になって人形座の方たちもなかなか出演する場所が激減しているっていうのは確かです。ただ、私が今勤めております十郎兵衛屋敷では、休館した時もあるんですけども、やっぱり継続していくことっていうことで、今、平日は1日1回、土日は1日2回の公演をやっております。

やっぱりそういう場がないと人形座の方たちのモチベーションが非常に下がるっていうか、やっぱり会って毎日その為に練習する。みなさんマスクをしながらとかで、実際本番の時はみなさん黒子を被ったりしてますので、ものも言いませんので、まず大丈夫だろうと。

で、十郎兵衛屋敷でも太夫さんの前には飛沫拡散防止のパネルを取り付けておりますし、舞台と客席の間は2メートル以上、また定員も半分以下に減らしてかなり広めにとっています。

また休館中は、お客さんがいない状態での人形座の人形浄瑠璃を記録に残すっていうことが今までなかなかできなかったんで、この際っていうのもあって映像に残したりとか、あとちょっと面白いのはYouTubeに動画をアップしたりして。何とか今こそ、何か人形浄瑠璃としてできることは続けていかないかなよな、っていうような感じでご協力いただける人形座の方たちと一緒にいろんなものは作っていったんですけども、十郎兵衛屋敷としては今非常にお客さんがやっぱり少ない。

だけどやっぱり、開館して人形浄瑠璃をやっていないとお客さんも来ないという両面を抱えているんですけども、お客様方にはやっぱり見ていただきたい。それであるの、本当にこう人形座の方たちは、やらないとなるとなかなか練習もする場所も少ないんで出来ないってことがあったんですが、今回特に、阿波踊り期間中にいつも「傾城阿波の鳴門 順礼歌の段」だけをやってたんですが、お盆の期間中だけ3回公演を3回とも違う演目をしたんです。

1日に3つの演目を出来る座も少ないんですけども、その為に皆さん方一生懸命練習もしてくださったようですよ、十郎兵衛屋敷へ出掛けてきて練習をすとか、そういうことでみんなのモチベーションも上がって、ちょっと良い試みだったかなっていうふうには思っています。

で、今このお客さんが少ない時期になんなんですが、新しい人達を呼び込んで講習会をしたりとか、人形座の方達のちょっとしたレベルアップを図ろうということで、今何が出来るか、何をしなければいけないのかなっていうことを考えながら、日常的に今動いているような感じです。

## 委員

よろしくお願いいたします。

この進捗状況の資料を拝見して、こんなにたくさんのが組みがなされている中、正直やっぱり知らないことっていうか、私の勉強不足もあると思うんですけども、やっぱりちょっとこう普通に生活してはなかなか、こんなことやってたんだとか、こんな風に、こんなにたくさんのがあったんだっていうのがなかなか分からないことが多い。知らないことが多いなっていうのを思いました。

で、何人かの委員の方が仰っていましたが、やっぱり情報発信の仕方というのも今一度考えていった方が良いのではないかなと思っています。YouTubeの話、先ほど何人かの方も仰っていましたが、実際に私も四国放送でも、例えばテレビのPR、ラジオのPRをする時に、会社に社会見学に来た高校生や大学生に聞くと、「テレビ見ない、ラジオ聴かない。どうしたらラジオ聴いてくれますか?」と聞くと、「YouTubeで教えてくれたらラジオ聴いてみます」と。で、「ゴジカルでこんなことします」「じゃ、YouTubeで流してくれたらそしたら見てみます」って。

で、やっぱりこれからの徳島を担う若い人たちは、そういう、私達はもうテレビのことはテレビの宣伝、ラジオのことはラジオというふうに、ちょっと思い込んでた所もあるんですが、やっぱりそういうPRの仕方っていうのは、若い人にもっともっと耳を傾けて、そうやって情報発信をして、より一人でも多くの人知ることによってアイデアや才能が集まってどんどん育っていくと思うので、そういった情報発信の仕方っていうのをもう一度考えていっていただきたいなと、我々も考えていきたいなと思っています。以上です。

## 委員

先ほどの委員と同じ四国放送にいるんですけど、情報発信のポータルサイトと言いますか、YouTubeだけではないんですけど、とくしまチャンネルとかそういった方法で、まあこのコロナの時期にこそ基礎体力を作って、そういったものを基礎固めしていく時期ではないのかなというふうに思っております。

我々の美術家協会の方が関わっていくイベントとしましては、年間にいくつか美術展があるんですけど、まず4月にありました放美展なんですけど、これは四国放送の主催で中止ということになってしまいましたので、ここから進展はなかったんですけど、この10月に県の美術展を行います。

こちらの方も徳島新聞主催で抱えておるんですが、まあ開催はすると。ただし今、いつもその一般の人を入れてですね、出品者を入れて、審査をしていく状況を見守るといふか、そういう環境が非常に密であるということになりまして、公開審査をしないという形になりました。果たして、これ実はおそらく県内でこの規模でやるコンペティション、美術コンペティションとしてはひとつテストケースになるのではないかなと思って、四国放送も実は放美展っていうことで主催をしておるので、今回は非常に参考になるパターンだなという事で期待をしているところです。

いずれにしても、歴史を見ても感染は長く複数起きています。ニューノーマルと言われてますけど、私はあの、国の方から途端になんか「新しい生活様式」っていうのがパッと出てきて、ものすごく違和感を感じました。何が新しい、何が古いんかというのを、全く分からない中でいきなり情報が飛び込んできて非常に違和感を覚えたのを今でも記憶しておりまして、これをまあニューノーマルという言葉に言い換えて、そこから我々は本当に欲しいのはニューノーマルではなくて、リアルノーマルなんだなと。

本当に、生で触れる芸術というのを、そもそも芸術というのは生で触れるっていうことが前提ではありますが、必要は発明の母ともまた言います。必要かどうかは別と

して、こういう災害、或いは感染とか、困難。あらゆる困難っていうのは芸術分野においてはですね、実は重要なテーマであって、これ以上ないモチベーションになります。

私どもデザイン、あのグラフィックデザインの世界とかでは、そういった戦争とか環境問題とかも含めまして、そういう困難に立ち向かう、あるいはそれに対する祈り、メッセージ、そういったものが非常に重要な制作動機になりますので、今後ともあらゆる分野のところで皆さん諦めないで前向きにしてもらえたらと思います。

最後にYouTubeの先ほど言った、情報伝達の方法なんですけど、本来はそういった情報発信の情報伝達の手段、そういうITとかオンラインっていうのは本来は手段であるというはずなんですけど、今現在は、目的になっているように気がしてなりません。

オンライン、ITとかデジタルの枠内で、表現・活動を納めようとするという方法は、私は基本的に芸術活動としては間違っていると思います。はみ出たもの、はみ出たものをどう伝えるかという、そこにポイントをおいて映像VRなど仮想空間を活用するという方法が理想ではないかなと考えます。以上です。

## 副会長

皆様方、非常に多くの貴重な御意見を頂きましてありがとうございます。

特にあの、多くの皆様方から出た意見、共通する点として、コロナ禍でいかにその文化芸術、こういったものを守っていくとか維持していくとか発展させていくのかということだったと思います。

その中でオンライン、あるいはデジタル化っていうようなお話が、先ほど、手段であって目的ではないというようなお話もございまして、確かにそうなんですけれども、その活用によってこのコロナ禍の中で文化芸術活動を維持し守っていこうということで、ひとつこれも手段であろうと思います。

実はちょっと手前味噌で恐縮かも知れませんが、徳島大学で今「徳島の文化を学ぶ」というオンライン講演会を開催いたしております、これはあの、ご承知のように大学も、3月から卒業式も入学式も中止、授業もだいぶ延期しまして開始しましたけれども、対面授業ではなくてオンラインの遠隔授業を中心にやっております。

こういった中で非常にこう、学生諸君は特に1年生が、県外の方が7割ぐらいいらっしゃるんですけど、徳島の地をよく分からないままに大学にも出てこれない、というような状況が続いておりました。新たな友人作りでありますサークル活動、これも中止させてもらってますので、それも参加できないというようなことで、徳島大学の学生として知っておいてもらいたい、これだけは知ってもらいたい徳島の文化・芸術。こういったものを学ぶための講座を始めております。

大塚美術館にご協力いただいたり、阿波踊りの連のご協力とか、藍染めもそうなんですけど、十郎兵衛屋敷の方にもご協力いただいております。こういったことでオンライン授業を展開して、学生にそれを見てもらって、それをテレビ徳島の放送網にもご協力いただいて乗せて、なおかつそこからYouTubeにも配信していくということを今やっております。

で、もうひとつですね、ちょっと脱線して恐縮なんですけれども、徳島のことをよく知っている人ほど、特に県外出身の大学生、徳島に残ってくれる確率が高いですね。いわゆる、そういった地域志向科目を履修した学生ほど徳島県内で就職する確率が高いというのもデータに残っておりますので、できるだけそういった活動を展開いたしております。

ということで、やはりあくまでも手段ではありますけれども、なんとかコロナ禍の中でオンライン、あるいはデジタル化、こういったものを積極的に活用してですね、もちろん目的と手段を間違えてはいけないんですけども、そういった中でいかに継続していくか、維持していくのかっていうのを、また県にご協力も頂きながらですね、積極的に展開していければと考えております。

あの、大きなイベントがおそらく中止とかで、経費も浮いたのではないかと思いますので、その経費をですね、そういった部分に回していくということも必要になってくるのではないかと思います。よろしくお願いたしたいと思っております。

#### 会長

どうもありがとうございました。

以上で、議事2、3について審議を終了したいと思います。

議事4、その他が残っておりますが、是非この機会にですね、一言言いたいて方がいらっしゃいましたらお願いします。

はい、どうぞ。

#### 委員

先ほど発表させていただいた件をよく見てみますと、何回開催するかっていうのが目標でありまして、そこに何名の方が来られたかっていうのが全くございません。ここが落とし穴じゃないかなと思われました。

だから、文学書道館では年間何回して何名来た、文書館では何回どういうことをして何名来た、その評価ってというのはどこがしているのかっていうことを今思いましたので、付け加えさせていただきました。

#### 会長

ありがとうございました。

それでは以上をもちまして、全ての議事を終了いたします。

議事進行にご協力いただきまして、大変ありがとうございました。

次回開催につきましては、後日改めて事務局からご案内いたします。

それでは、マイクを事務局にお返しいたします。